

自治体選挙の結果とコミテ・シピコ（地方市民政党）の動向

040218 青西靖夫

昨年7月に呼びかけたコミテ・シピコ支援の件につきまして、遅くなりましたが報告を送らせていただきます。後日また機会を見て、別の視点からの報告も作成させていただきます。

1) 支援対象であった3カ所の自治体選挙結果

昨年、支援を検討した3地域のコミテ・シピコの選挙での結果は以下の通りです。

ソロラ県サンティアゴ・アティラン・レコムプロジェクトでも支援してきた前市長ディエゴ・エスキーナ氏の再選を目指していた「コミテ・シピコ・マヤ・ツウトヒル連合」は無事に再選を果たしました。ここでは前回選挙ではディエゴ氏を支援していた地域の「治安・開発委員会」が、旧ゲリラ組織から生まれた政党 URNG(グアテマラ民族革命連合)の支援を受けて、新しいコミテ・シピコを設立。そこが中傷キャンペーンを繰り返したうえに、ディエゴ氏暗殺計画の噂まで飛び交うという状況でしたが、選挙の結果、約25%の得票率でディエゴ氏が再選されました。

政党名	得票数	得票率
CCUMTSA マヤ・ツウトヒル連合	1,754	24.93
CCA (コミテ・シピコ・アティラン)	1,124	15.97
UNE (国民希望党)	1,031	14.65
PU (PARTIDO UNIONISTA)	1,018	14.47
PP-MR-PSN. (GANA連合)	778	11.06
その他	1,332	18.93

サンティアゴ・アティランには投票日にも訪問しましたが、投票所の数の問題等のため、炎天下に数時間並んで投票するというコンディションでしたが、多くの人たちが列を作り、参加していました。しかしながらそうした列の中に女性の姿がとて少なく、女性の投票権の行使がまだまだ進んでいないことを実感しました。(キチェ県やチマルテナンゴ県では多くの女性たちが投票していたとの話も聞いており、女性の選挙への参加については検討課題と考えています。)

ディエゴ市長はかねがね問題となっていた水道サービスの安定化が住民の支持を受けた大きな理由であるかと述べています。4年間の成果として自治体の諸手続きに関する費用・手続きプロセスの透明化、明瞭化も進めたこともあげていました。このほかにも第一期目の4年間で地域の住民組織の育成強化も行ったとのこと。

同じくソロラ県の県の中心都市でもあるソロラ市でもコミテ・シピコ(「開発のためのソロラ連合」 SUD)が勝利しました。ここは1996年から1999年にかけて同一のコミテ・シピコによる自治体行政が行われましたが、1999年の選挙では、URNG が支持基盤を取り合うような形で自治体選挙に参加して、最終的に URNG 市長の勝利となりました。そして今年再び、地域住民の後押しを受けて SUD として選挙に参加したものです。

結果は以下の通りです。

政党名	得票数	得票率
SUD (開発のためのソロラ連合)	3,268	22.25
URNG (グアテマラ民族革命連合)	3,044	20.72
FRG (グアテマラ共和戦線)	2,584	17.59
PAN (国家進歩党)	1,850	12.59
その他	3,943	26.84

アルタベラパス県、トゥクルでは、残念ながら支援していたコミテ・シビコ「トゥクル農民運動」は敗退しました。ここもコミテ・シビコ同士が競合するという状況であったことが敗北の大きな要因であると思われます。1999年まで二期連続市長を出したコミテ・シビコの PUNIT (トゥクル人の連合計画)は1999年の選挙で敗れた後、今回も市長選に参加しました。しかし URNG を通じて国政に転身した前市長が地域住民を軽視しているということで、PUNIT に対する支持が分裂。このことから今回二つのコミテ・シビコが参加することとなり、敗北につながったと思われます。

政党名	得票数	得票率
CCMCT (トゥクル農民運動)	795	13.8
FRG (グアテマラ共和戦線)	1,551	26.93
PU (PARTIDO UNIONISTA)	1,102	19.13
PUNIT (トゥクル人の連帯計画)	764	13.26
その他	1548	26.88

今回の3つの自治体の選挙に共通する問題としては、住民組織、民衆組織という基盤を地域のコミテ・シビコと URNG あるいは URNG 系のコミテ・シビコとで取り合う結果となっていることがあげられます。これは1995年の選挙で FDNG (新しいグアテマラの民主戦線)として政治参加を進めた地域が、1999年の選挙では URNG と組織基盤の奪い合いをしていたのと同じ構図といえるでしょう。

この3カ所以外に、10月に入りコナビグアの若者グループが支援していた、キチェ県のウスパンタン、サン・アンドレス・サフカバハのコミテ・シビコからも支援を要請されたことをお伝えします。このどちらも残念ながら FRG の候補の前に敗退しました。

2) 自治体選挙の結果とコミテ・シビコ

2003年11月の総選挙では、前与党のFRG(グアテマラ共和戦線)にかわり、連立政党であるGANAと国民希望党(UNE)が票をのばしました。12月にはこのGANAのオスカル・ベルシェとUNEのアルバロ・コロムの間で大統領の座をめぐる決選投票が行われ、この結果オスカル・ベルシェが勝利し、大統領に就任しました。

政党名	第一回 得票数	得票率	決選投票 得票数	決選投票 得票率	全国区 議員数	地方区 議員数
GANA	921,316	34.32	1,235,303	54.13	8	39
UNE	707,635	26.36	1,046,868	45.87	6	26
FRG	518,464	19.32			7	36
PAN	224,179	8.35			4	13
その他	312,585	11.65			6	13

定数158の国会議員選挙では、GANAが47議席を確保、それに続いてFRGが43議席、UNEが32議席を占めることとなりました。特記すべきは大統領選挙では19%を占めるにすぎなかったFRGが地方区で票をのばし計43、27%の議席を確保したことです。しかし定数158のうち、過半数を確保した政党はなく、第一党であるGANAは、議会運営を安定化するためPAN、UNEなどと調整を進めています。

< 自治体選挙の結果 >

自治体選挙の結果では331の自治体のうちFRGの市長候補が120の自治体で当選し、続くのがGANAです。コミテ・シビコが自治体選挙で当選したのは全国で27の自治体となっています。

2003年選挙における自治体選挙の政党別の結果

	2003年選挙		1999年選挙		
	自治体数	%	自治体数	%	
FRG	120	33%	153	47%	
GANA系(*)	77	23%			
UNE	37	11%			
PAN	34	10%	107	33%	
PU	10	3%			
URNG	8	2%	13	4%	(99はDA-URNG)
DCG	7	2%	10	3%	
DA	4	1%			
コミテ・シビコ	27	8%	25	8%	
その他	7	2%	21	6%	
計	331		329		

*GANAの3党連合(66)および参政党の単独もしくは2党連立(11)

ここでは少し詳細に自治体選挙の結果を考察してみたいと思います。

大統領選で敗北する一方で、自治体選挙ではFRGが圧倒的な勝利をおさめたと思えることもできるような自治体数ではありますが、1999年の選挙時と比べるとFRGは大きくその数を減らしています。

一方、UNEは初の選挙であったにもかかわらず37の自治体を抑えているというのは比較的健闘したと言えるでしょう。

コミテ・シビコは前回の選挙ではケツアルテナンゴ、チマルテナンゴなどいくつかの重要な県都を抑えていましたが、今回はそうした都市では政党候補に破れています。

< コミテ・シビコの動向 >

今回勝利したコミテ・シビコは全部で27であり、ほぼ全国に分散しています。その中でも最も数が多いのはソロラ県の4つであり、次にケツアルテナンゴ県の3つが続きます。また今回、ソロラ市とサカパ市ではコミテ・シビコが県都を押さえました。また27のうち同一のコミテ・シビコで連続勝利したのはサンティアゴ・アティトランを含め8カ所となっています。

(* 市長再選かどうかはデータ未整理のため不明。またコミテ・シビコは選挙ごとに再登録されるため、同一の名称を使っていることから同一のコミテと判断していますが、その内実に継続性があるのかどうかを検証することはできていません)

前回の選挙ではアンティグア・グアテマラ、ケツアルテナンゴ、チマルテナンゴ、ウエウエテナンゴと重要な県都をコミテ・シビコ出身の市長が治めていたのと代わり、上記の4つの市でコミテ・シビコは敗北し政党出身の市長になっています。チマルテナンゴ市では前回とは異なる5つのコミテ・シビコが乱立。この5つのコミテで約42%の得票を得ているもののGANA候補に敗北。ケツアルテナンゴではコミテ・シビコ・シェルフー(Xela-Ju)出身のリゴベルト・ケメ・チャイ氏が2期連続市長を務めたものの、シェルフーは今回は政党候補に大差で敗北しました。ケメ氏の大統領選挙出馬に向けたごたごたなども影響したと思われます。ケツアルテナンゴ県ではコミテ・シビコの数も8つから3つに減少しました。アンティグア・グアテマラでは前回と異なる二つのコミテ・シビコが参加しましたが、PAN、UNEに続く第3党とFRGを挟んでの第5党に留まっています。ウエウエテナンゴでも新たなコミテ・シビコが参加したものの大差で破れています。

しかしながら全体の数としては前回総選挙よりも2つ増えており、コミテ・シビコという動きが前進しつつあるのか、停滞しているのかを判断するにはもう少し詳しい分析が必要でしょう。

コミテ・シビコの一つの問題は、現行法では、選挙終了とともに消滅し、毎回選挙ごとに新たに登録することになっていることでしょう。このことがコミテ・シビコの継続性を確保することが難しくしています。

(サンティアゴ・アティランではコミテ・シビコを同一の名称・ロゴで選挙後にアソシエーションとして登録して、その存在を維持しています。このような形で名称等を保持しなければ、次の選挙時に他の団体等がその名称等を利用して登録される可能性があるといえます。)

またこれまで地方の現状を無視した候補者人選を行っていたと批判されている政党も、地方とのつながりを配慮して候補者を人選するようになってきたという声もあります。自治体の選挙も所属政党から、候補者個人あるいは地域とのつながりを重視する方向に動きつつあるとも思われます。同時にコミテ・シビコ候補の複数出馬やコミテ・シビコ間の対立なども見えますと、単にコミテ・シビコが地方政治の強化につながるとは単純には言えないでしょう。

コミテ・シビコの意義については、投票率や女性の参加、市政運営のあり方など多方面から検討する必要があると思われます。

< 自治体選挙の結果 - 補論 FRG支持基盤について >

既に述べたように、今回の選挙では農村部でのFRGに対する支持の強さが一つの特徴でした。そこでここでは特に傾向が強くなったキチェ県を中心に、FRGへの支持のあり方を検討します。

(今回および前回の選挙でFRGが県内の半数以上の自治体で勝利した自治体名および自治体数)

県名	県別自治体数	1999年FRG自治体数	2003年FRG自治体数	%	増減
トニカパン	8	6 75%	5 63%		-1
スチテペケス	20	15 75%	7 35%		-8
アルタベラパス	16	12 75%	6 38%		-6
エスクイントラ	13	8 62%	7 54%		-1
イサバル	5	3 60%	1 20%		-2
サカパ	10	6 60%	2 20%		-4
ハラパ	7	4 57%	5 71%		1
サケテペケ	16	9 56%	6 38%		-3
チキムラ	11	6 55%	5 45%		-1
キチェ	21	9 43%	15 71%		6

< FRGの支持地域の変容 >

FRGの支持地域として今回突出しているのはキチェ県とハラパ県であり、それぞれ県内の7割以上の自治体がFRGの市長でしめられています。しかし、FRGの支持地域が常に固定化しているわけではありません。ここ2回の自治体選挙でFRGが自治体の半数以上を抑えていた県は右の表の通りです。

トニカパン、スチテペケ、アルタベラパスなど前回FRGの強かった地域のうち、スチテペケス、アルタベラパスでは大きく自治体数を減らしています。

また今回FRGの市長が当選した自治体120のうちFRGの市長が連続して選出された地域も59と半数にすぎません。このような点からFRGが地域の基盤と密接にからみついて強固な基盤を有するとは一概には言えそうにはありません。

その一方で今回のキチェ県におけるFRG支持の突出は顕著であり、このあとに検討します。

< キチエ県における FRG の浸透 - 試論 >

今回の自治体選挙ではキチエ県で FRG が大きく伸びています。内戦のもっとも厳しかったこの県で、内戦時の弾圧の重要な責任者であるリオス・モントが大統領候補であった FRG がここまで伸びていることには驚かされます。キチエ県が FRG の牙城となった観がさえあります。自治体選挙では21の自治体中15を押さえ、キチエ県選出の地方区議員選挙では得票率 20.39%の GANA を大きく引き離し、40.81%と倍の得票を得ています。この結果 FRG はキチエから5名の国会議員を送り込んでいます。

	自治体選挙	地方区	大統領選挙
QUICHE			
Santa Cruz Del	FRG	FRG	UNE
Chiche	URNG	URNG	URNG
Chinique	FRG	FRG	FRG
Zaculpa	FRG	FRG	FRG
Chajul	FRG	FRG	FRG
Chichicastenango	FRG	FRG	FRG
Patzite	GANA		
San Antonio Ilco	FRG	FRG	FRG
San Pedro Jocot	FRG	FRG	FRG
Quinen	FRG	FRG	FRG
San Juan Cotz	FRG	FRG	FRG
Joyabaj	FRG	FRG	FRG
Nebaj	FRG	FRG	FRG
San Andres Saj	FRG	FRG	FRG
Uspantán	UNE	UNE	UNE
Scapulas	FRG	FRG	FRG
San Bartolome	GANA	GANA	FRG
Canilla	FRG	FRG	FRG
Chicaman	FRG	FRG	GANA
Ixcán	URNG	URNG	DSP
Pachalum	GANA	GANA	GANA
HUEHUETENANGO			
Oriantla	FRG	FRG	FRG
Quilco	FRG	FRG	FRG
San Pedro Nect	FRG	FRG	FRG
Jacaltenango	FRG	FRG	FRG
Santa Barbara	FRG	FRG	FRG
San Miguel Aca	FRG	FRG	FRG
San Rafael Ind	FRG	FRG	FRG
San Sebastian I	FRG	PAN	FRG
Tectitan	FRG	FRG	FRG
Concepción H	FRG	FRG	FRG
San Sebastian (FRG	FRG	FRG

ここで注目すべきは自治体から大統領選挙まで FRG 支持地域には強いコントロールが効いていると思われる点です。あるいは政党としての強固さを示しているということもできるでしょう。

左の表ではキチエ県の自治体ごとに、自治体市長、地方区議員、大統領選(第一回)のなかで、どの政党への投票がもっとも多かったかという結果から投票行動を推測しています。左の表が示すようにキチエ県(およびウエウエテナンゴ県)の FRG 支持地域では、市長選 - 地方区国会議員 - 大統領選と一貫した FRG 支持が見て取れます。これが FRG が地方区から多くの国会議員を送り込んだメカニズムでしょう。

ですがここに FRG の政党としての成熟を見るべきなのか、かつての抑圧機構の名残を見て取るべきなのか、即断はできません。言えることは、キチエ県および、左表でキチエの下にあるウエウエテナンゴ県の FRG 支持地域ではこの特徴が強く見られるということです。(これは支持政党に関わりなく、農村地域の投票行動の特徴と見なすこともできるかもしれません)

表は添付していませんが、全国的には FRG の基盤が比較的強いと思われるトニカバンやハラパなどでも、自治体選挙では FRG を支持している地域でも大統領選に関しては他政党への投票行動が見られます。またケツアルテナンゴ県でも FRG 市長支持地域でも大統領選では UNE に票が集まっています。また東部の自治体での FRG 支持地域では大統領選では GANA への投票が見られます。

補足するならば、大統領選挙で UNE を支持した地域では、自治体・地方区とも多様な投票行動のあり方を見て取ることが可能です。(これは UNE が自治体選挙を展開するだけの十分な人材を有していなかった可能性もあります。)その一方で FRG を大統領選挙で支持した地域は地方区、自治体とも FRG を支持した地域にほぼ限られています。(表は省略)